

2023年度資金運用方針

2022年度の運用結果を踏まえ、分散投資、リスク管理、および運用ガバナンスの強化を図り、慎重かつ着実に進めてまいりたいと考えております。今後も、ご理解と一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

1. 資金運用の目的

運用益（利息・配当金収入および有価証券売却益）は、本学の給付奨学金など様々な基金事業による事業費に充当する。

2. 基本方針

- （1）有価証券運用は一定の流動性資金を確保した後の範囲内で効率的に行い、1%程度の運用利回りを目標とする。
- （2）投資資産のリターン・リスク特性を十分に考慮して、全体的な運用収益の変動性を適切にコントロールする。
- （3）PDCAサイクルを活用した運用管理を実践し、資金運用の実効性向上を図る。
- （4）ESG（環境・社会・ガバナンス）やSDGs（持続可能な開発目標）に積極的に取り組み、対応をしている企業等を投資対象に組み込み、「投資リターンの向上」と「社会的リターンの向上」の両輪を目指す。

3. リスク管理

資金運用方針に則り、資金運用小委員会が策定した運用計画、運用基準を資金運用委員会が協議・決定し、運用状況をモニタリングするリスク管理体制とし、また定期的に常任理事会および理事会に報告することにより、運用ガバナンスを確保する。

4. 運用計画

（1）資産配分

資産区分	現預金	有価証券 短期運用	国内債券	外国債券	リスク性 資産	その他 (仕組債)	合計
資産配分	52%	8%	21%	4%	14%	1%	100%

（2）運用方法

- ①債券運用では、利回り確保の観点から長期ゾーンでの債券購入を基本とする。
- ②有価証券短期運用では、定期預金同様の流動性を保持しつつそれを上回る利金収入の確保を図る。
- ③リスク性資産は委託運用を基本とする。

以上